

なかなかみんなとあえないですね。いちにちもはやくコロナウイルスがすくなくなっていくますようにいのりたいですね。

「そのとき」おもしひふびょうをわずらっているひとがイエスのところにきてひざまずいてねがい、「みこころならば、わたしをきよくすることがおできになります」といった。イエスがふかくあわれんで、てをさしのべてひとにふれ「よろしい。きよくなれ」といわれると、たちまちおもしひふびょうはざり、そのひとはきよくなった。イエスはすぐにそのひとをたちさせようとし、きびしくちゅういして、いわれた。「だれにも、なんにもはなさないようにきをつけなさい。ただ、いってさいしにからだをみせ、モーセがさだめたものをきよめのためにささげて、ひとびとにしょうめいしなさい」しかしかれはそこをたちざると、おおいにこのできごとをひとびとにつげ、いいひろめた。それで、イエスはもはやこうぜんとまちにはいることができず、まちのそとのひとのいないところにおられた。それでもひとびとはほうぼうからイエスのところにあつまってきた。

きょうやくせいしよ(レビ 13・45～46)には、おもしひふびょうにかかったひとがどうすればいいかとかいてあります。

おもしびょうきのひとは、ひとにあうことができない、もしくうせんにひととであつたら「わたしは、けがれたものです」とさけんでいわなければならなかった、まちのなかにすむことができず、いつもひとりできびしくすごさなければならなかった。

このおそろしいびょうきはなおるほうほうも、くすりもなかった。いまは「ハンセン」といういおしゃさまがくすりをみつけて、なおるようになりました。それでいまは、そのびょうきを「ハンセンしびょう」というようになりました。

おもしひふびょうのひとはつらかったでしょう。みんなからきられて、のけものにされて、だれもともだちになってくれなくて、しあわせがあるはずがない、そうおもってどれほどさびしかったでしょう。

だからイエスさまにあつたとき、なんとかしてもらいたいとおもってひざまずいて、「わたしのきもち、このわたしのよわさ、このわたしのくるしみをわかっているイエスさまに「みこころ(おのぞみ)ならば、わたしをきよくすることがおできになります」といいました。イエスさまはふかくあわれんで、「わたしはのぞむ」「よろしいきよくなれ」といわれました。

イエスさまはびょうきをなおすちからをもっています。イエスさまのころはあわれみのころで、やさしいころで、おもしひふびょうのひとにてをだしてそのひとのてをとって、そのひとに「わたしはのぞむ、きよくなれ」といわれたのです。

イエスさまはだれにもいわないようにといわれたのに、そのひとはあまりにもよろこんだので、じぶんがなおったことをみんなにしらせた。もうみんなとあうことができる、イエスさまのおかげでもうさびしくないの、だまることができなかつた。

いまも、さびしくまいにちをすごしているひとがいます。そのひとびとのためにイエスさまにおねがいでいのりましょうね。